

道徳科学習指導案

指導者

T 1 富本 利枝

T 2 重森恵美子

1 日 時 令和 6 年 1 月 22 日 (月) 5 校時

2 学 年 第 1 学年 (1 1 名)

3 主題名 「みんなとなかよく」 [B 友情, 信頼]

4 ねらい

やまがらの涙を見たみそさざいと、待ちわびた友達のみそさざいが来てくれた時のやまがらの気持ちについて考えることを通して、友達のことを思っ、大切にすることの喜びに気づき、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

5 教材名 「二羽の ことり」
（「しょうがくどうとく いきるちから」 日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第 1 学年及び第 2 学年の内容項目 [B 友情, 信頼] , 「友達と仲良くし、助け合うこと。」に基づくものである。これは、第 3 学年及び第 4 学年では、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」, 第 5 学年及び第 6 学年では、「友達と互いに信頼し、学び合っ、友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を気づいていくこと。」に繋がっていく。

友達は、家族以外で特に関わりを深くもち、互いに影響し合う存在である。人がよりよく豊かに生きるためには、友達どうしが互いを理解し合い、信頼し、助け合い、学び合っ、友情を深めていくことが大切であり、人間関係を作るもとになる。

低学年においては、友達と仲よくすることや助け合うことの大切さに気づかせるために、友達のことを思うことや友達どうしが助け合うことで互いの喜びにつながることを捉えさせていきたいと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、2 羽のことりの心情を考えることを通して、友情, 信頼について考えることができる話である。遠い山の家に住むやまがらの誕生日に招待されていたみそさざいは、他のことりたちと近くの梅の林に住むうぐいすのところへ音楽会の練習に行ってしまう。しかし、ことりたちのなかまを待っているやまがらのことを思い、音楽会の練習をそっ、抜け出してやまがらの家へ行く。みそさざいがきてくれたことで、小さな目に涙を浮かべて喜ぶやまがらの姿を見てみそさざいも喜ぶという内容であり、友達の喜びが自分の喜びにつながることに気づかせたり、友達の温かさを感じ取らせたりすることができる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、友達と意見交流をすることで、道徳的実心情を育めるようにしたい。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入段階で、資料と事前アンケートの結果、友達がいてよかった経験をもとに、「ともだちとなかよくしつづけるためには、どんなきもちがたいせつなのだろう。」という本時のめあてをつかませる。
- ② 展開前段では、「うぐいすの家での音楽会の練習」「やまがらの誕生日のお祝い」の場面についてみそさざいの思いに共感したり自分の体験と重ねたりして考える。その際、「やまがらさんの誕生日なんだよね…。」「きっと待ってるだろうにね…。」等、教師のつぶやきによって、初めはうぐいすの家に行ったのに、途中からやまがらの家へ向かったみそさざいの気持ちの変化は、主題となる友情に起因していることをおさえるようにする。
- ③ 中心発問では、やまがらのうれし涙を見た時のみそさざいは、どんな気持ちだったのかを考えさせることで、友達のことを思い、相手を大切に作る行動をすると、相手だけでなく自分も温かい気持ちになることに気づかせる。
- ④ 展開後段では、みそさざいのように「友達のことを考えて動いていたこと」「自分のことを思って友達が動いてくれたこと」について考えさせることで、友達と仲良くし続けるために大切なこと「どちらも、嬉しい・楽しい。」を今までの児童の日常生活と関連づけるようにする。児童の反応によっては、「友達のことを考えてこう動けばよかったこと」を取り上げ、思ってもなかなか実行にできていない弱さに共感させながら、今後の生活で生かしていこうとする意欲や態度に結び付けさせたい。

7 準備物

・挿絵 ・ペープサート ・振り返りシート

8 学習指導過程

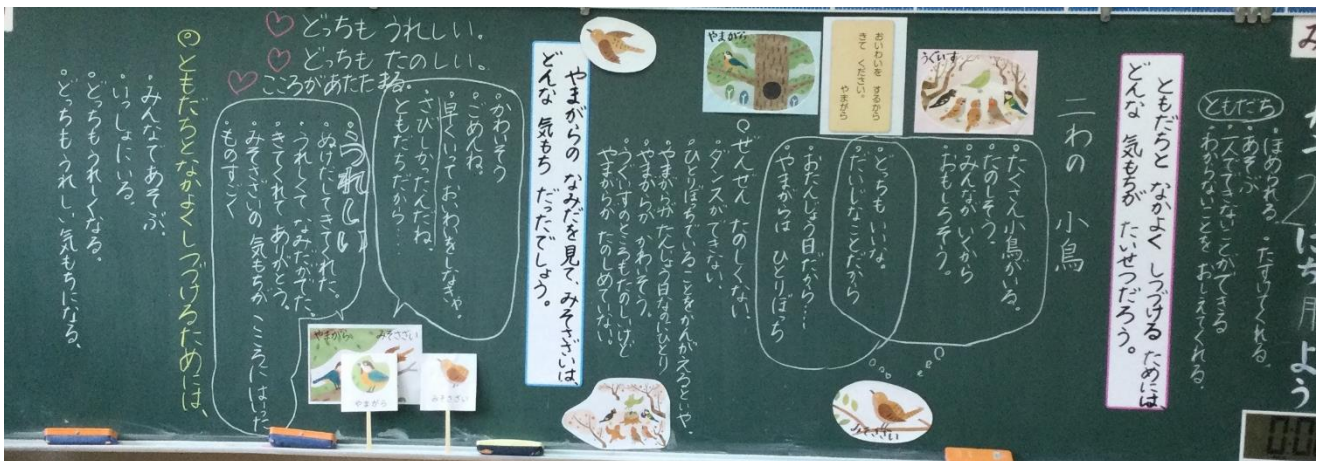
	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点 ●学習評価★授業評価
			T 1	T 2	
導入 (8分)	1 アンケートの結果を紹介して、課題意識をもつ。	○友達がいてよかったと思うことを話しましょう。 ・休憩時間一緒に遊んで楽しかった。 ・やり方がわからないときに、教えてくれた。 ・帰りの支度が間に合わないときに、手伝ってくれた。	発問	板書	○意見が出ないときには、事前にとったアンケートから友達がいてよかったことを提示し、課題につなげる。
	ともだちとなかよくしつづけるためには、どんなきもちがたいせつなのだろう。				

展開 (32分)	2 教材「二わのことり」を読んで考え、話し合う。	○うぐいすかやまがらか、どちらの家にいこうか迷っているときのみそさざいはどんな気持ちになっているでしょう。 ・うぐいすさんの家にも行きたいし、やまがらさんはお誕生日だからお祝いしてあげたい。迷うなあ。 ・音楽の練習も大事だけど、誕生日はもっと大事だよな。 ・みんなは、いかないのかな。 ・みんな、うぐいすさんの家に行くみたいだから、どうしようかな。 ・うぐいすさんの家で練習するほうが楽しそう。 ・やまがらさんの家は遠いから行くのが大変だ。 ○うぐいすの家にも楽しくないみそさざいは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・やまがらさん、大丈夫かな。 ・せつかくの誕生日なのに、だれもお祝いに行かないから、すごくさみしいだろうな。 ・みんな来ないから、きっと悲しんでいるだろうな。 ・みんなをずっと待っているんじゃないかな。心配だな。 ・やまがらさんに悪いことしたな。	発問 机間指導 発問	板書 机間指導 発問	○うぐいすの家とやまがらの家のどちらに行こうか迷う気持ちを共有させる。 ○やまがらのことが心配でやまがらの家に行こうという考えばかりが出たときは、「そんなに心配ならば、すぐに行けばいいのに、どうしてまよっていたのでしょうか。」と問いかけ、多様な考え方や感じ方に気づかせる。 ○やまがらのことが気になって、楽しめないみそさざいの気持ちを考えることを通して、友達を大切にしていなくての心地悪さについて考える。
---------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	---

		【中心発問】 ○やまがらの涙を見て、みそさざいはどんな気持ちだったでしょう。 ・やっぱり、みんなを待っていたんだな。 ・だれもきてくれなくて悲しかったんだ。 ・遅くなってごめんね。 ・最初から、こっちに来てあげていればよかった。 ・うぐいすさんの家にいってしまって、ごめんね。 ・こっちに来てよかった。 ・とっても喜んでくれて、うれしいな。 【考えを深める発問】 ○みそさざいが、誕生日会に来てくれて、やまがらはどんな気持ちになりましたか。 ・みそさざいさんが、来てくれてとってもうれしい。 ・だれも来てくれなかったのに、みそさざいさんだけが来てくれた。ありがとう。 ・みそさざいさんは、やさしい友達だ。これからも、ずっと友達でいたい。 ○みそさざいのように、友達のことを考えて行動したことや、やまがらのように友達からしてもらってうれしかったことはどんなことですか。 ・お休みしていた人が、できていなかったことがあったので、「こうするんよ。」と教えてあげたら、「ありがとう。」	役割演技 発問 机間指導 発問 発問	役割演技 板書 机間指導 板書 板書	○「2わはどんな話をしたのでしょ う。」と問いながら、役割演技を行わせる。友達のことを思って行動するときの気持ちを実感させ、やまがらの涙を見たみそさざいから、友達のことを思って大切にすると、相手も自分も温かい気持ちになることを考えさせる。 ○「みそさざいは、これからうぐいすの家を抜け出して、飛んでいきますよ。どんな気持ちかな。」「誕生日会の準備をして部屋で、やまがらはずっと友達を待っていますよ。今、どんな気持ちかな。」等こりの様子や気持ちに寄り添わせる。 ○友達のことを思って関わり合う場面を具体的に考えさせることで、日常生活と結びつけられるようにする。
--	--	--	---	---	---

	3 自分の生活を振り返る。	と言ってくれた。教えてあげてよかったと思った。 ・休み時間に「一緒にあそぼう。」とさそった。一緒に遊んで楽しかった。 ・転んでけがをしたときに、「大丈夫？」と気にかけてくれた時、うれしかった。 ○友達と仲良くし続けるためには、どんな気持ちが必要ですか。 ・友達のことを考えて動くやさしい気持ち。 ・両方がうれしくて楽しい気持ちになるようにすると、仲良くが続く。	発問 机間指導	板書 机間指導	【キーワード】 ・どちらも ・うれしい。 ・たのしい。 ●友達のことを思っ て、大切にする ことの喜びにつ いて考えている。 (自分との関わり)
終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○「友達と仲良くするために大切な気持ち」を込めて、歌を歌いましょう。	発問 机間指導	机間指導	★友達と仲よくすることの喜びに気づき、これからの自分の生活に生かそうとしている。

9 板書



10 成果と課題

- 場面設定や人物設定を丁寧に行うことで、役割演技のときに児童が二羽の小鳥になって、思いを語ることができていた。
- 友達と仲よくするどっちもうれしい、どっちも楽しいと、双方がうれしい気持ちになることに気づくことができた。

- 役割演技の後、「やってみてどうだったか」、「見ていてどう思ったか」を聞くべきだった。児童の考えを深めるためには必要であった。
- 発達段階にあった課題を設定する。

11 今後に向けて

- ・ペアで役割演技をすることで、お互いの考えを聞くことができるようになってきた。今後、全体での役割演技を取り入れ、全体でシェアリングが出えきるようにしていく。